

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成21年7月(2009年) No.523

第49回OMC映像フェスティバル

10月4日(日曜日)に会場確保

今年も作品選定にうれしい悲鳴になりそう

OMC最大行事であるOMC映像フェスティバルは、今年も大阪市立中央会館へ3ヶ月前の7月4日に申込みに行き、クジ運よく10月第1日曜4日にホールを確保することができました。秋の土曜日曜は各種団体の発表会やイベントでホールの確保がいつも懸念されますが、運がよかったとほっとしています。くじがはずれたら次の日曜、それが駄目だったら又次の日曜とそれぞれの3ヶ月前の当日、申込みに行かねばならず頭の痛いところでした。11月になると大阪アマチュア映像連盟の映写会が中央図書館であるので(日程未定)、その1ヶ月前にはOMCフェスティバルを開催する必要がありますので今年の日程が決ったことは安心材料です。

さて作品ですが昨年の8月から今年の7月例会までの作品の中から、来たる7月31日(金曜)夜の幹事会で選定し、プログラムを編成することになります。昨年もそうでしたが今年も10分を越す作品に良い作品が多く見られますので、13時開会で16時半上映終了の間に上映可能な時間は、休憩や司会の時間を差し引いて凡そ2時間40分。したがって1本平均10分を越しますと昨年の例で16本、今年は一よつとしたら15本位に絞らざるを得ないのではないかと考えております。あくまでも内容重視で選出し、質の高いOMCの発表会にするのが第一です。今年も黒田先生のご好意による1万ルーメンの明るい映写環境のもと、ハイビジョン主体の充実した映像発表会で必ずや観客の皆様にご満足頂けるのではないかと考えています。

7月例会のお知らせ

7月例会は第4土曜日25日午後6時より、大阪市立難波学習センター(JRなんばOCATビル4階)にて開催します。皆様のお越しをお待ちしています。楽しいひとときを過ごしましょう。

撮影会作品コンテストは例会日の13時半より

八日市撮影会作品公開コンテストは、例会日の午後に行います。撮影会未参加の方もどうぞご来場の上、投票に参加して下さい。

■幹事は7月31日(金)18時30分より秋のOMC映像フェスティバルに向けての作品選定とプログラム編成会議を、上記の通り行いますので、幹事の方はご出席下さい。

■例会場もクールビス?

いつも夏期は寒い程の室温だった例会場ですが、6月例会では少し暑いほどの室内温度でした。あそこは寒いからと上衣を用意して行ったのですが、肩すかし食ったような感じでした。5月例会では寒い位の室内温度でしたので、今月から「エコ」のために冷房を控えめにしているのでしょう。

出品料の見直しについて

◎フェスティバル会計赤字拡大防止対策

毎年最大のイベントであるOMC映像フェスティバルは、おかげ様で大変好評で、明るい映写とハイビジョン中心のプログラム編成、内容の充実と皆様から期待されております。この点は喜ばしい限りですが裏から見た台所事情は、年々本会計からの持ち出しが増えております。昨年は赤字が66,000円となっています。ちなみに4年前は26,000円でしたから、この4年間で2倍半の持ち出しとなっています。1昨年の18名、2年前の19名に比べ、出品者が減って収入が少なくなっているのも要因の一つです。

昨年は1作品平均11分の上映時間でしたが、OMCの10分以内に対し制約のないOMCは、どうしても10～17分の作品が多く出品者数が絞られてくる傾向にあります。

内容重視で作品を選んでいきますので、内容が伴う作品ならば長くても結構ですしそれがOMC伝統の一つでもあります。しかし、今までの長短に拘わらず1人7,000円の出品料でやってきましたが、どうやら今年は昨年以上に長編で良い作品が見られますので15作品位に絞らざるを得ないのではないかと、という気がしております。

会計から考えますと、赤字拡大は避けたいところですので、今年は作品の長さによって出品料に差をつけざるを得ないかなあと思っております。ちなみに昨年は1作品

当たり11分の長さで経費は11,860円かかっていました。7月31日(金)夜に行われる幹事に因って今年からの出品料のありかたについて決めたいと思います(合原)。

6月例会のレポート

梅雨の季節とは言え本格的な雨は見られず、例会日もむし暑い夏日でした。そのせいか若干少な目の25名の出席者と14本の作品が出品されました。後半10分以上の作品が集まりましたので9時の時間一杯の上映時間でした。今月の司会は、風邪でのを痛めたからと有村氏に替わって吉岡氏が担当、書記、合原氏、受付兼照明係は進藤氏と宮崎さん、映写係はいつもの河合、増池、江村3氏の担当で進行しました。

■出席者：有村、井上、上田、江村、上総、紙本、河合、河口、黒田、合原、進藤、錦、田中、西村、華岡、前田、増池、宮井、宮崎、森口、森下、安居、山本、吉岡の24氏と見学者1人の合計25名の出席。

■上映作品：今月の記録と講評、合原会長
1. 山田池公園(W)

増池 茂さん 7分45秒

枚方にある山田池公園へ先日行かれて撮影された由。広い公園ですね。人も少なく散策にはもってこいの公園のようです。この作品の中心となるのは、あじさいの花の場面と花しょうぶ園の場面でしょうか。天気の良い昼間だったので、あじさいにしてももうひとつ水みずしさが足りなかったと作者自身が語っておられました。また、花しょうぶ園のところでは、お年寄りの顔のアップは少しロング気味にして花もアップとロングとうまく組み合せた方がよい等と司会よりのアドバイスがありました。

2. 伝説の溪谷赤目四十八滝(W)

森口吉正さん 8分40秒

赤目四十八滝は、平成の名水百選に選ばれたところということで、名水百選に取り組んでおられる作者は、つい先日行ってこられた由。天気の良い日で逆光の緑の葉がとても綺麗で印象的でした。伝説の伝わるいくつかの滝をめぐり、興味深く伝説を紹介されています。撮影は1日だけ3時間だったそうですが、事前によく調べて行かれ

たので、うまくまとまっていた。

3. 墓標の島 (HDV)

山本正夢さん 8分40秒

第2次世界大戦で激戦地だったパラオのペリリュー島へ行かれて、現地ガイドの案内で戦跡を撮影して来られました。戦車やゼロ戦、大砲、上陸用舟艇等の大型の残骸から砲弾や手榴弾、鉄かぶと、飯盒等の小物の遺留品まで無数の戦争の名残を示すものが島のあちこちにあるようです。戦争で双方で2万人からの戦死者が出たようで「平和」を改めて感じ入りました。ナレーションは入っていませんが、字幕で適宜解説があり、映像もしっかりしているので、よく伝えたいことが伝わったように思います。私たちには、ほとんど行けそうにないところを、いつも見せて頂き山本作品を楽しみにしております。

4. 顔 (HDV)

安居利次さん 6分00秒

人の顔は左右対称ではない、ということ映像で証明されました。よくもまあ、こんなテーマを思い浮かべられたものと、その発想力に感心しております。勿論、この作品をつくるには高度なパソコン技術があったことが前提ではありますが。人の顔をタテに半分にしてまず左側だけ見せ、それを右面に反転してくっつけて見ると、まるで別人のような印象になるし、その反対でもやはり本人とは違う別人のように思えるようになるということ、結論としてはやはり左右非対称の今の自分の顔が好きだ、というわけで安居さんならではの作品に仕上がっていました。

5. 紫陽花のころ (HDV)

進藤信男さん 9分00秒

矢田寺はあじさいの花で有名なお寺さんで、今年は雨が少ないので、主に昨年雨の降ったときに行かれて撮影した雨のあじさいを主に使用して纏められています。あじさいは、しっとりとした小雨か雨の後が良いのですが、少し激しい降りだったようで傘に当たる雨の音が大きく入っていました。

この作品は寺の説明とあとは紫陽花で、紫陽花が主役でありテーマです。そうなる

と、題名の付け方に少し違和感が出てきます。〇〇の頃、ということメインテーマはその後に続く「何があった」「どんな事をした」と期待してしまいます。それが、紫陽花の頃、紫陽花となると同じ主題の繰り返しになって変です。このあたりを念頭においてタイトルを考えてください。

6. 空港周辺 (HDV)

有村 博さん 9分55秒

JR伊丹駅前レンタルサイクルを借りて、伊丹空港の周りを一周し、飛行機が発着するシーンをアップで撮影されています。ほんの近くからの飛び立つジェット機のドUPはさすがに迫力満点でした。インターネットで飛行機の発着時間、方向などくわしく調べてから行かれた由で、それが良いカットの撮影に結びついたものと思います。作者のいつものお元気な姿に、少し見習わなくてはと思っているのですが。

7. パナソニックGH1暗所性能テスト

(HDV) 井上勝彦さん 10分00秒

井上さんはいつも新しいことにチャレンジされていてOMCに新風をもたらせて頂き感謝しております。今月は前月に引き続きのGH1というミニDVではないメモリーカード式デジタル一眼カメラのテストで、夜の風景をいろいろな角度からテストされています。ホテルが飛ぶ光も撮れていて、1ルクス程度でも撮影できるとのこと。但しISO感度を変えてみるとか使いこなしが難しいという説明がありました。又パンニングはしない方がよいとも。

これからのビデオカメラはDV以外のメモリーカードやハードディスク等が主流になるでしょうが、先を行かれる作者には、この先いろいろと教えて頂くことが多くなると思います。よろしく願いいたします。

8. 野崎小唄 (HDV)

宮井 健さん 3分30秒

唄で知られた野崎観音へ行かれたが行事など何も無い日で建物とかお地蔵さんなどを撮り、それらをバックに「野崎小唄」の歌謡映画にしました、との作者の弁。それはそれで短編ながら楽しく纏まっていた。ただご本人が少し出過ぎ。せかせか歩くシーンは無い方がムードを壊さずに良い

筈。若いべっぴんさんなら、いくら出ても見飽きはしないと思うのですが…。

9. 国東の素晴しき鬼たち (HDV)

河合源七郎さん 14分23秒

大分県国東半島へ行かれて珍しい修験者たちの行事、というかお祭を取材してこられました。裸の男たちが水垢離をすところから始まりますが、季節は後でお伺いすると旧正月ということで2月の寒いときの行事とか。夜間撮影が主で松明の灯りでよく明るく撮影されています。すべてオートで撮られた由。縄でくくられた特殊な扮装の鬼があばれまわったり、祭の異様さが画面から滲み出ています。鬼が家の中へ入っていきますが作者も一緒に入り込んで部屋の中での出来事をつぶさに撮影されていました。そして酒をふるまわれる等素朴でおもしろい地方の特色がよく出ていました。

10. 丹波八上城 (HDV)

紙本 勝さん 11分10秒

作者の今回の城跡めぐりは、標高 400m 余りの丹波の八上城の跡でした。かなり急な上り階段を撮影しながら1時間半ほどかけて登られたようで、変らぬ健脚ぶりに脱帽です。この城跡は標識があるだけで、石垣などほとんど何も残っていないとのことでした。したがってここを訪ねる人もほとんどいないでしょう。何もなければ作品としてナレーションに頼らざるを得ないという宿命の作品になってしまいました。

しかし、じっくりと拝聴していますと、いにしへの戦国武将たちの様子が思い浮かべられ、興味深く拝見いたしました。

11. 西宮十日えびす (HDV)

吉岡貞夫さん 17分30秒

今まで大まぐる奉納と湯もみ踊り奉納、並びに一番福の開門神事等、それぞれの作品に仕上げられていたのを「十日えびす」として1本にまとめられました。したがって、作品の長さも17分余という長さになってしまいました。十日えびす全体の行事を判ってもらうには1本化の方がいいのかも知れませんが、課題としては、全体を描くとしてどれだけ短くできるか、即ちメリハリをつけてどのカットを省き、どこを強調して印象づけるか等でしょう。この作品の

場合、そうした観点から見て、もう少し短くできるような気がいたします。

12. 雪だるま (HDV)

前田茂夫さん 6分44秒

余部鉄橋の工事が始まる前の昨年の映像だそう。題名からして子供たちが雪だるまを作っている楽し気な情景が思い描かれました。まずトップシーンは、雪あらし地蔵さん前の雪かきする男、大雪で列車が運行停止のシグナル、そして次にラッセル車がやってきました。ラッセル車がここを通るのは大変珍しい出来事のように。

作者は、このラッセル車が引き返してくるかと期待して待つ間、余部駅ホームに積もった雪で、大きな雪だるまを作っている人を撮影されました。題名から見て、この雪だるま作りがテーマのようですが、何か作品のねらいは別にあつたのではないかと少し疑問を感じました。ラッセル車が再びやってこないだろうか、と気をもみお天気や時間を気にする心情を描いた作品はできないだろうかと、ふと思いました。

13. がんばれ貴志川線 (HDV)

上田吉巳さん 9分50秒

赤字路線で南海電鉄が手放した路線が、猫のたまちゃんやいちご電車、更におもちや電車まで登場して、今や全国的にも名を知られ、乗客も増えて経営もうまくいっている様子が映像で描かれています。よく調べられてしっかりした脚本のもとに作られていますので共感を感じます。たまちゃんも今「スーパー駅長」として出世して益々人気ものになっているようで、ほほえましい限りです。よく出来た作品でした。

14. 土佐の夏 YOSAKOI (HDV)

江村一朗さん 7分50秒

おなじみの「よさこい」シリーズ。毎年撮影されていて、これは昨年夏の祭の様子。さすがに手なれた撮影と編集技術は迫力充分、見る人を惹きつけます。音がきれいなのに感心しますが、残念ながら一部入力オーバーの部分がありました。音がこま切れになるのも少し気になりました。ラストカットがなんとなく終わったみたいで物足りなく感じましたが、作者らしい作品でした。